

享月 日 葉斤 辰

2012年(平成24年)4月26日 木曜日

柴山知也・早大理工学術院教授

「想定外」に対応計画必要



これまでの歴史的な津波を考えて、最大級の津波を想定して作成したのだとは思う。ただ、市町村が避難計画を作る際は、これを一つの指標として「想定外」のことが起きても対応できるように計画しておく必要がある。

例えば、東京湾内の地震

は「大きな津波の発生は考えられない」と検討の材料にされていない。確かに東京湾北部地震のような直下型地震でも津波は小さいだろう。だが、大きな揺れや液状化で防潮堤や河川堤防が壊れてしまい、機能しなくなる可能性がある。

また、東京湾岸の市川市と船橋市を中心に標高の低い平地が広がっている。想定以上の津波がちょっと入ってきただけでも、被害面積が広がることを考慮すべきだろう。